

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島市立亀山南小学校		
学校長氏名	白石 隆	栄養教諭氏名	曾我部 真由美
職員数	31名	児童・生徒数	402名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 昨年度目標とした「給食残食率2%以下」については達成することができた。学年会で取組を話し合い、全校での給食時間のルール（「もぐもぐタイム」の設定等）を教職員で徹底させた。
- 食事のマナーやバランスのよい食べ方の定着を図るために、給食時間に学級訪問し、学年に応じた指導を行っていく。
- 食に関する指導については、食に関する全体計画と年間指導計画の見直しを行い、計画的に教科等に関わっていく。
- 養護教諭と協力しながら、児童の健康に関する相談に取り組む。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

○目標：「給食を偏食しないでバランスよく、しっかり食べる」

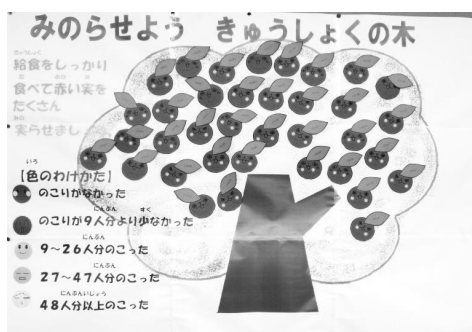
成果指標・・・給食残食率の低下

目標値・・・毎月の給食残食率2%以下

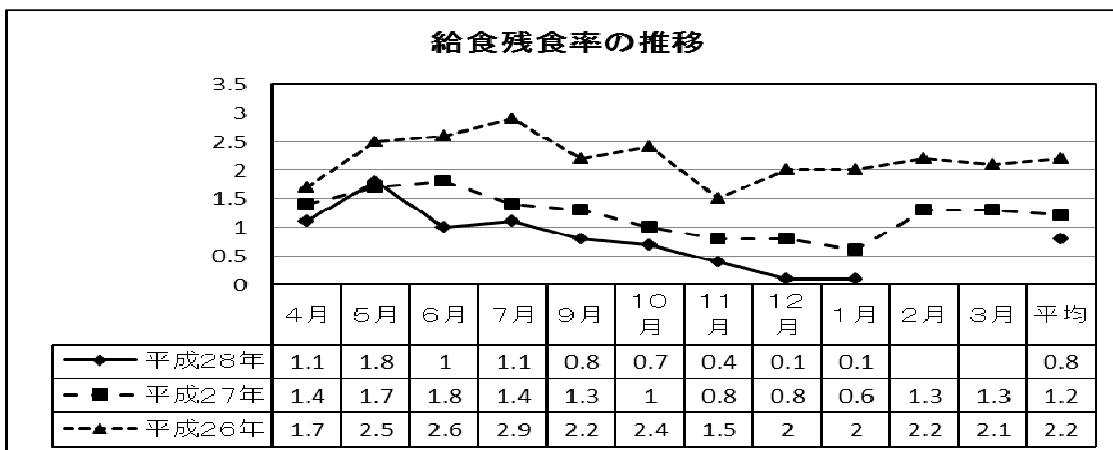
3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 給食残食量減少への取組（目標残食率2%以下）

- 学年会で取組について話し合い、具体的な手立てを共有してもらった。
- 毎月の残食結果を教職員に配付した。
- 給食終了15分前から10分間無言で給食を食べる「もぐもぐタイム」を設定し、食べることに集中する時間を徹底した。



- 給食委員会活動で、年2回（6・1月）各学級の残食調査を行い、完食日数により金・銀・銅のメダルを贈った。
- 給食センターと連携した残食調査を年2回（6・1月）行い、「実らせよう！きゅうしょくの木」の取組を行った。1月には、残食ゼロのシール付きの赤い実を多く実らせることができた。



【取組2】(テーマ) 食に関する指導の充実についての取組

○給食時間における指導

- ・学級訪問による指導・・・給食時間の実態の把握(食事の様子・嗜好等)と共に「好き嫌いしないで食べよう」をテーマに指導を行った。
- ・ランチルーム給食での指導・・・今年度設置されたランチルームで「食事にふさわしい場で、楽しく気持ちよく食べる習慣や食事マナー、食に関する知識を身につける。」ことを目的として、学年別に指導テーマを設けて指導を行った。
- ・食育放送による指導・・・「食の大切さについて理解し、健全で豊かな食生活を送るための自己管理能力を養うこと」を目的として、事前に指導掲示資料を学級に配付して毎月食育の日に食育放送を行った。

○教科等における指導・・・学級活動(1年・2年)、体育科(4年)、言語・数理運用科(5年・6年)、家庭科(5年・6年)で担任とのTTによる指導を行った。

○給食センター受配校への食に関する指導・・・小学校1年・3年(学級活動)・5年(給食時間)、中学校(給食時間での全校放送)において指導を行った。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○学校給食では、「タコタコライス」と以前に実施した「ひろしまあげあげちくわ」を取り入れた。

○取組の実施方法について家庭にプリントを配付し、協力を依頼した。



○学級へ実施献立の掲示資料を配付し、給食放送で取組の紹介を行った。

○「ひろしま給食100万食プロジェクト」の献立を校内に掲示し、児童へ紹介した。

○調査結果では、5つの料理を「家庭で食べた」478食、「家庭で作った」126食であった。手軽に作ることができるゼリーが多く作られていた。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

- 給食残食率2%以下については、達成することができた。(4月～2月平均0.8%)
- 学級訪問とともに、新たに設置されたランチルームでの給食を行い、指導の場とすることができた。
- 教科等における指導については、担任とのTT指導体制により、食に関する指導を効果的に行うことができた。

【課題】

- 教科等で行う指導について、計画的に全学年で行うことができなかった。
- 給食センターとの兼務のため、受配校と本務校での指導時間の調整が難しかった。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- 給食残食についての取組は、給食時間のルールの徹底も含めて引き続き行っていく。
- ランチルーム給食での指導回数を増やし、学年別指導内容を検討して定着させていく。
- 食に関する指導については、年間指導計画の中で受配校を含めて調整できるよう改善していく。